

教育研究業績書

2025年05月07日

所属：日本語日本文学科

資格：講師

氏名：林 貴哉

研究分野	研究内容のキーワード
応用言語学，在外ベトナム人研究，日本語教育学	自律学習，エスノグラフィー
学位	最終学歴
博士（言語文化学）	大阪大学大学院言語文化研究科言語文化専攻博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. 日本語学習アドバイジングをやってみよう（ウェブサイト）	2020年10月10日公開	学習者が自分の言語学習の目標や方法を自分で決め、学習計画を自分で立てる能力である「学習者オートノミー（自律性）」を育む方法として提唱されている「言語学習アドバイジング」を日本でも浸透させるために、日本語のウェブサイトを作成した。理論的な背景や、参考文献を紹介し、各制作者がそれぞれの実践をふまえた考えを示すことで読者が現場での応用方法を考えるためのヒントとなることを目的としている。ウェブサイトの構想段階からメンバーの一人であり、言語学習アドバイジングを行う意義について執筆した。 制作者：瀬井陽子，瀬尾悠希子，中井好男，中尾未来/周正，林貴哉，脇坂真彩子
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 名古屋、アジアに出会う：文化・歴史・記憶をあるく	共	2025年2月28日	図書出版みぎわ	column 5「団地を訪ねる：日系ブラジル人との出会いから」（林貴哉）、「東海地方のベトナム人と仏教寺院：名古屋から広がるネットワーク」（林貴哉） 筆者の留学経験を踏まえ、「エスノグラファーとしての言語学習者」という概念に基づいて言語学習を捉え直した上で、地域日本語教室の実践の報告を行った。教室活動として自己表現活動を行うことで、参加者同士の相互文化的な理解を促進することの重要性を指摘した。 西口光一（監修），神吉宇一，嶋津百代，森本郁代，山野上隆史，義永美央子（編） 担当：第10章「在日外国人の人生・生活に注目した実践―日常生活の中に日本語教室を作る」（林貴哉） 担当：第7章「新しく「母校」をつくる」（林貴哉・榎井縁）、第9章「母校と大学進学・就職：母校卒業生の母語とアイデンティティに注目して」（林貴哉・王一瓊）、第13章「トランスランゲージング空間をつくる：外国人生徒が力を発揮するために」（王一瓊・林貴哉）
2. 一歩進んだ日本語教育概論：実践と研究のダイアログ	共	2024年3月31日	大阪大学出版会	
3. 外国人生徒と共に歩む大阪の高校：学校文化の変容と卒業生のライフコース	共	2023年6月1日	明石書店	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
4. リフレクティブ・ダイアログ：学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング	共	2022年3月31日	大阪大学出版会	学習者の自律性を育むための言語学習アドバイジングの実践と研究に関する著作であるReflective Dialogue: Advising in Language Learning (Kato Satoko, Mynard Jo 著) を日本語に翻訳した。本書を日本語に翻訳することを通して、英語教育だけでなく、日本語教育においても学習者オートノミーを育む実践に対して理解が深まることを企図している。 監訳：義永美央子，加藤聡子 訳者：安部麻矢，瀬井陽子，林貴哉，久次優子，村上智里 担当：第2章「研究を実践に生かすー実践の中のアドバイジング」の中の「2.1.2 深化－ターニングポイントへの移行」（pp. 133-192）を構成する10の対話の翻訳と全体的な相互チェック。
2 学位論文				
1. ベトナム系移住者のモバイル・ライブズとことば：難民としての経験と日本での生活	単	2021年6月30日	大阪大学大学院言語文化研究科博士学位申請論文	多文化共生の課題の一つである「言語（日本語）の問題」を当事者の視点から捉え直すために、難民として来日したベトナム系移住者を対象としたライフストーリー研究を実施した。日本語だけではなく、当事者のモバイル・ライブズ（移動の中にある生活）の中で、複数の言語を渾然一体と使用してきた経験に注目した。言語的な背景が異なる者同士のコミュニケーションの捉え方を示した。
3 学術論文				
1. 継承語をめぐるモデル・ストーリーと言語観の検討：日本のカトリック教会でのベトナム系移住者の言語活動に注目して（査読付）	単	2025年3月28日	シンポジウム「移動・境界・言語」論文集 49-81	本論文では継承語の話者であるといなされる人々を対象としたライフストーリー・インタビューを実施するため、トランスリンガリズムに基づく言語のモデルを検討した。言語教育の先行研究において継承語がどのようなストーリーに基づいて語られてきたのかを分析した上で、日常生活の言語活動の事例として、ベトナム人集住地域のカトリック教会においてベトナム語がどのように使用され、宗教実践に参加するメンバーによって諸言語がどのように認識されているのかを分析した。継承語の多様な姿をモデル化することで、トランスリンガリズムを踏まえたインタビュー調査を行うための言語観を提示した。
2. Confucian Perspective on Death in the Refugees Struggling to Survive: An Implication from “The Decade of a Vietnamese Refugee Girl” （査読付）	共	2025年3月28日	Bulletin of Asia-Pacific Studies 27(2) 25-36	本稿では、東アジアから海外に移住した移民や難民が、儒教的な死生観をどのように継承し、自らの経験をどのように解釈しているかを考察する。日本に住む中国系ベトナム人女性の自伝『ベトナム難民少女の十年』に焦点を当て、儒教的な家族道徳や倫理がどのように描かれているかを分析することで、儒教的な世代間継承の考え方や人生に対する肯定的な評価、死に対する認識に強く影響を受けていることが明らかになった。 著者：林貴哉，宮原暁
3. Introduction: Transnational Caregiving, End-Of-Life, and AI (Artificial Intelligence) and Robots for Transnational Families from Global Perspectives	共	2025年3月28日	Bulletin of Asia-Pacific Studies 27(2) 1-5	著者：星野和実、林貴哉
4. 在日ベトナム難民のライフストーリー：職場での言語使用・習得についての語りに焦点を当てて（査読付）	単	2024年10月31日	日本オーラル・ヒストリー研究、第20号、pp. 256-275	難民受け入れを行うホスト社会側ではなく、ベトナム難民の視点からことばの経験を捉えるため、2名の在日ベトナム難民のライフストーリーの分析を行った。日本語以外の言語や人的ネットワークを含む、様々なリソースによって実現される在日ベトナム難民の生活に注目することで、日本語が習得できているか、それとも欠如しているかという二項対立では説明できない、ことばをめぐる経験について記述することができた。
5. 書評：佐藤慎司・神吉宇一・奥野由紀	単	2024年6月15日	『早稲田日本語教育学』第36号、	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
子・三輪聖編『ことばの教育と平和—争い・隔たり・不公正を乗り越えるための理論と実践』			pp. 291-295	
6. 2023年度日本語教育関連活動の報告および「コロナ禍」前後における教育実践の検証	共	2024年4月5日	『武庫川国文』第96号、pp. 47-62	著者：上田和子，野畑理佳，林貴哉
7. 交換留学のための英語学習支援：Project HELP！とタンデム学習プロジェクトの比較から	共	2024年3月31日	『多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集』第28号、pp. 65-72	大阪大学国際教育交流センターでは、海外留学実現のために必要な英語力の獲得を支援するために、2015年度から英語メンタリング学習プログラム「Project HELP！」を実施してきた。本稿では、HELP！と同様、得意な言語が異なる学生同士がペアとなって言語学習を行うプログラムとして、2012年度から大阪大学文学研究科・文学部で実施されてきた「タンデム学習プロジェクト」を比較対象としながら、HELP！におけるコーディネーターの役割を検討した。 著者：林貴哉，中野遼子，垣塚保子
8. 留学生との英語学習プログラム“Project HELP!”の実践報告：9年間の取り組み事例とアンケート結果の分析を中心に	共	2024年3月31日	『多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集』、第28号、pp. 55-63	本稿は、2015年度より大阪大学国際教育交流センター主催で開始した「留学生との英語学習プログラム“Project HELP！”」（以下、HELP！）について、その実践報告を行うとともに、参加者対象に実施したアンケート結果を分析して、HELP！の教育的効果を明らかにすることを目的としている。具体的には、HELP！の9年間のデータをまとめ、留学生（メンター）と英語学習者（メンティー）のマッチングのルールについて整理する。次に、これまでのアンケート結果を分析することで、メンターとメンティーにそれぞれどのような学びがあったのかを明らかにした。 著者：中野遼子，林貴哉，垣塚保子
9. Struggle with the “Japanese Healthcare System for Older Adults”: A Case of a Vietnamese Professional Care Worker (査読付)	共	2024年3月28日	Bulletin of Asia-Pacific Studies, 26 (2), pp. 47-60	著者：林貴哉，宮原暁，李宗泰（クリス）
10. Transnational Caregiving for Older Adults and Wellness in North America, Latin America, and Asia	共	2024年3月28日	Bulletin of Asia-Pacific Studies, 26 (2), pp. 1-3	著者：星野和実，林貴哉
11. エスノグラファーは「書くことが躊躇われること」をどう記述し得るか：ある華僑の経歴に関するテキストをめぐって（査読付）	共	2023年3月	『言語文化研究』大阪大学大学院人文学研究科言語文化専攻・外国学専攻・日本学専攻応用日本語コース、第49号、pp. 181-202	本論文では、在日華僑の間でスキャンダルとされてきた出来事に関するテキストを分析した。歴史記述や民族誌が近代科学的な表象の作法に即しがちであることを再帰的に反省し、知識の伝達に関する参与者の定義を参照しながら、近代科学的な表象の作法に立ち向かって書くことを提起した。 著者：宮原暁，林貴哉，岡野翔太
12. マイナー文学としての『ベトナム難民少女の十年』：漢語を抛りどころにローカルな声を生きる（査読付）	共	2022年3月	『アジア太平洋論叢』大阪大学グローバルイニシアティブ機構、第24号、pp. 185-206	難民として日本に受け入れられた中国系ベトナム人が日本語で著した『ベトナム難民少女の十年』を分析対象とした。北京語、広東語、海南語、ベトナム語、日本語を生活の中で複雑に関連させながら使用してきた主人公はローカルな音声言語からの排除を経験する。いずれの場所にも完全に受け入れられなかったが、複数言語を媒介する漢語を抛り所としてローカルな声の中を生きていた。 著者：林貴哉，宮原暁 担当：宮原がマイナー文学の視点から書記言語と音声言語を区分する記述戦略について検討し、林はその戦略に基づいてテキストを分

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
13. 日本の大学におけるタンデム学習の意義（査読付）	共	2020年6月	『JASAL Journal』日本自律学習学会、第1巻第1号、pp. 104-128	析した。 タンデム学習では、異なる母語を話す二人がペアになり、互いの言語や文化を学び合う。九州大学と大阪大学において、カリキュラム外活動として対面式タンデム学習を行った者を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、多様な背景・ニーズを持った参加者にも対応できる、個人レベルでの継続的な交流を促すといった意義が明らかになった。 著者：脇坂真彩子，林貴哉，北川夏子，ヴォランスキ、バルトシュ，原田佳祐，蔡真彦 担当：大阪大学の事例（pp. 116-120）とまとめ（pp. 121-123）を執筆した。
14. 外国人生徒を「特別扱いする学校文化」の形成に関する考察：大阪府立特別枠校の事例から（査読付）	共	2019年3月15日	『未来共生学』大阪大学国際共創大学院 学位プログラム推進機構未来共生イノベーター博士課程プログラム部門、第6号、pp. 299-327	大阪府立高校では、外国人生徒に必要な支援を行う「特別扱いする学校文化」が形成されている。その形成過程を明らかにするために外国人特別入試を実施する複数の特別枠校の教員を対象としたインタビューを実施した。「特別扱いする学校文化」の形成に対して、各特別枠校の社会的文脈が異なる影響を与えていることや、担当教員の形成に果たす役割について明らかにした。 著者：伊藤莉央，王一瓊，林貴哉，山本晃輔 担当：普通科のG校の事例（pp. 316-320）。
15. 中学校から高校へ繋がるサポート：大阪府立特別枠校に通う外国につながる高校生へのインタビューから（調査報告書）	単	2019年3月	『外国につながる子どもを元気にするための実態調査報告書：大阪の日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校の高校生へのアンケート・インタビューから見えてきたこと』特定非営利活動法人おおさかこども多文化センター，pp. 31-42	公立高校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたちが、中学校や国際交流センター、地域の支援教室、NPO 等において、どのような支援を受けてきたのかを明らかにするために、高校生を対象にアンケート調査とインタビュー調査を行った。応募者は本論文において、インタビュー調査を担当するメンバーの一人であり、中学校から高校へ進学するためのサポートに焦点を当てた分析を行った。
16. ベトナム人集住地域における複数言語の使用と学習に関する研究：日本に定住した中国系ベトナム難民のライフストーリーから（査読付）	単	2018年12月	『言語文化教育研究』言語文化教育研究学会、第16巻、pp. 136-156	日本語学習の機会が限られていたベトナム難民を対象に、ベトナム語や日本語といった複数の言語を使用・学習することの意味づけを明らかにすることを目的とした。インタビュー調査とフィールドワークの結果、職場での日本語の使用を阻む社会的文脈や、「話す権利」が保障された場所の重要性、さらに、ベトナム仏教の活動を行うという一見、ベトナム語に重点が置かれた活動であっても、日本社会への積極的な参加を支える要因になっていたことが明らかになった。
17. 自分の思いが伝わる場所：大阪市立市岡中学校日本語教室	単	2018年3月	『未来共生学』大阪大学未来戦略機構第五部門未来共生イノベーター博士課程プログラム、第5号、pp. 273-284	多文化共生を実現させるための諸課題と、その解決のための取り組みの一事例として、外国から大阪市内の公立中学校に編入してきた生徒に対して、日本語教育や適応指導を行っている公立中学校の日本語教室を取り上げた。そこでは、来日間もない生徒が自分の伝えたいことを教員に伝えるために試みる多様な手段（母語やイラストの使用等）が許容され、一人ひとりの生徒の生活に寄り添ったサポートが行われていた。
18. 「海」を通じた共生の姿：言語、文化、世代を超えた教室外の学びの場	単	2017年3月	『未来共生学』大阪大学未来戦略機構第五部門未来共生イノベーター博士課程プログラム、第4号、pp. 430-432	学びの場は教育機関の中にのみあるのではない。ベトナム語の語学留学のために1年間を過ごしたベトナムの海辺の町で実施されていた、移動図書館の活動について述べた。それは言語、文化、世代を超えた多様な背景を持つ人々が、自分なりの方法で関わることでできる活動である。そこに関わる筆者自身の第二言語ユーザーとしての経験とアイデンティティの変容についても記している。
19. 書評：Bonny Norton, Identity and Language	単	2016年3月	『未来共生学』大阪大学未来戦略機構第五部門未来共	カナダ在住の移民女性のアイデンティティと言語学習について論じたNorton（2013）の書評を行った。多文化共生に向けた示唆として、言語学習者が、不平等な力関係を乗り越えて目標言語の話され

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Learning: Extending the Conversation (2nd edition) Bristol: Multilingual Matters, 2013 20. 震災から4年を経た野田村の今：6人の眼を通して見えてきたもの	共	2016年3月	生イノベーター博士課程プログラム、第3号、pp. 446-448 『未来共生学』大阪大学未来戦略機構第五部門未来共生イノベーター博士課程プログラム、第3号、pp. 376-383	ている社会の中で安心して言語を使用できるようにするためには、学習者の背景や現在置かれている状況といったアイデンティティに関わる事柄を丁寧に理解しようとする研究や実践が必要になるという指摘を行った。 2011年に発生した東日本大震災の被災地の一つである岩手県九戸郡野田村の復興状況を理解することを目的としたフィールドワークを実施した。野田村に生きる人々に聞き取りを行った上で、調査結果を地域へと還元させるためのコミュニティラジオ番組を制作し、地域に向けた発信を行った。 著者：伊藤莉央，岩根あずさ，小泉朝未，林貴哉，陳文韻，山田真知子 担当：公立図書館で読み聞かせ活動を行う女性たちにインタビューを行った（p. 378）。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Roles of Internet Radio Programmes in Vietnamese: Case of Community Centre in Kobe, Japan 2. ベトナムの国旗とロゴ：在日ベトナム人支援団体の事例から（ポスター発表、ライトニングトーク） 3. 宗教コミュニティにおけるコミュニケーション：ベトナム人集住地域に位置するカトリック教会に注目して（パネル発表） 4. 在日ベトナム系移住者の生活の中でのことばをめぐる経験（口頭発表） 5. 対面式タンデム学習における自律的な学習とその変化（口頭発表） 6. 外国人生徒の高校卒業後の進路形成に関する研究：大阪府立特別枠校の卒業生インタビューより（口頭発表）	単 単 単 共 共	2024年8月16日 2023年12月9日 2023年6月18日 2021年9月5日 2019年12月1日 2019年9月12日	21st AILA World Congress, International Association of Applied Linguistics 第105回東南アジア学会研究大会 日本言語政策学会第25回研究大会 日本オーラル・ヒストリー学会第19回大会 日本自律学習学会2019年次大会 教育社会学会第71回大会	Symposium "Youth in translingual and transmissional practices in a rapidly aging society: The importance of 'space' and language." (Chair: Rika Yamashita) パネル「エスニシティに基づいた空間はどのように形成されるのかー日本のベトナム系およびパキスタン系「コミュニティ」の事例よりー」（山下里香・安達真弓・林貴哉）の一部として発表。 難民として来日したベトナム系移住者を対象に、当事者の視点からことばをめぐる経験を明らかにした。先行研究が指摘する日本語習得の不十分さは、暗黙裡に日本語母語話者が規範とされている等、ホスト社会からの視点にとどまっていた。本発表では、ベトナム人集住地域での参与観察やインタビューの結果をもとに、ベトナム系移住者の経験を分析することで、移住者の視点から複数言語を使用した生活を提示した。 大阪大学文学部の対面式タンデム学習プロジェクトでは、参加者が顔合わせをし、学習目標や計画、初回の学習内容や方法を決めるところまではコーディネーターが関与するが、その後の学習活動は参加者に任せられる。インタビュー調査の結果から、タンデム学習の参加者が、学習開始後にどのように自律的な学習を進めていくのか、また、目標や学習方法の変更が必要な場合は、どのように変化させていくのかを明らかにした。 発表者：林貴哉，蔡真彦 外国人生徒向けの特別枠を設置している大阪府立高校7校のうち、すでに卒業生を輩出している6校の卒業生40名にインタビュー調査を実施した。特別枠校では支援の充実した大学への進路指導が行われ、生徒のライフチャンスの最大化が図られていた。大学進学後も、特別枠校で培った母国を志向するエスニック・アイデンティティは維持され続けており、一部の生徒は、大学を卒業し、就職する過程に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 在外ベトナム人コミュニティにおける声の発信：米国のベトナム語メディア関係者の語りから（口頭発表）	単	2019年9月8日	日本オーラル・ヒストリー学会第17回大会	において自らのエスニックな資源を最大化し、日本社会を支える人材となっていることが明らかになった。 発表者：林貴哉，棚田洋平，伊藤莉央，王一瓊，櫻木晴日，植田泰史，今井貴代子，榎井縁，山本晃輔 担当：G校におけるフィールド調査と、発表全体の総括。 米国カリフォルニア州に位置する世界最大の在外ベトナム人コミュニティにおいて、ベトナム語のテレビ番組が制作される背景や過程を分析した。番組制作者への聞き取りから、南北統一前のベトナム南部で使用されていたベトナム語を使用することが、ベトナム人コミュニティの声を守り、発展させていくことの土台になっていること、また、現在は、ベトナム難民1世の声と若い世代の声の共存が目指されていることが明らかになった。
8. ライフストーリー研究再考：在日ベトナム難民へのインタビューを振り返って（ポスター発表、招待有）	単	2019年7月21日	2019年度日本語教育学会九州沖縄支部活動	日本のベトナム人集住地域でフィールドワークを実施し、ベトナム難民1世に生活と言語に関するインタビュー調査を実施してきた経験を振り返った。インタビュー調査によって明らかにできるのは、第二言語の使用や学習に対するベトナム難民による意味づけであるという点を強調した。また、日本語教育に従事する者が、第二言語学習者のライフストーリーを読むことで学習者への理解を深められること、さらに、自身の関わる学習者の声にも耳を傾けることの意義について述べた。
9. 日本語教育における質的研究の現状と課題（パネル、ディスカッサント、招待有）	単	2019年7月20日	2019年度日本語教育学会九州沖縄支部活動	日本語教育における質的研究に関連した5つの発表へのコメントを通して、質的研究の意義や可能性、方法について議論を行った。 発表者：石澤徹，岡田祥平，神吉宇一，小林浩明，嶋津百代，瀬尾悠紀子，牲川波都季，名嶋義直，林貴哉，古屋憲章，脇坂真彩子 担当：これまで実施してきた複数言語を使用したインタビュー調査とライフストーリーの記述の経験をもとに、発表へのコメントを行った。
10. 在日ベトナム難民はいかに日本語を学んできたか：教室外の日本語学習に注目して（口頭発表）	単	2019年3月23日	日本語教育学会2018年度第6回支部集会	日本での定住生活の中で、話し言葉だけでなく読み書きも身につけたと述べる在日ベトナム難民の日本語学習を明らかにするためにケーススタディを実施した。積極的に日本語を学習していた理由には性格が言及されていた。個人的な要因の他にも、阪神・淡路大震災の際にボランティア活動に参加したことを契機に事務職員になったというエピソードからは、社会的な要因が大きく影響していることが明らかになった。
11. 日本語学習に意義を見出せない理由：在日ベトナム難民のケース・スタディから（口頭発表）	単	2019年3月9日	言語文化教育研究学会第5回年次大会	日本国内のベトナム人集住地域に暮らすベトナム難民の中でも、意識的な日本語学習を行わずに日本で生活してきた人を対象とし、積極的な日本語学習を行ってこなかった理由を探索した。調査者は日本語を十分に学習した上でそれを活用していると想定していたが、それぞれの調査協力者は言語に依存するとは限らない、個別の方法で社会と関わりを持ち、生活上の課題を遂行していることが明らかになった。
12. ニューカマー特別枠校の変容と課題：大阪府の事例から（口頭発表）	共	2018年9月3日	日本教育社会学会第70回大会	大阪府立高校において全国に先駆けて施行された、外国人生徒を対象とした特別枠制度に注目し、特別枠校の学校文化の定着と変容、その課題について分析・考察を行った。特別枠校（7校）の教員や、大阪府教育委員会や外国人支援協議会、外国人支援を行うNPOを対象としたインタビューを行い、外国人生徒に必要な支援を行う学校文化は、コンテクスト、システム、実践という3本柱から成り立っていることを明らかにした。 発表者：榎井縁，棚田洋平，林貴哉，王一瓊，石川朝子，今井貴代子，比嘉康則，山本晃輔 担当：調査対象とした特別枠校7校のうち、1校（G校）におけるインタビュー調査とその分析を担当。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. Foreword (Voice of Pain and Hope: 66	単	2024年12月24日	Bulletin of Asia-Pacific Studies	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
Verses from the Cox' s Bazar Rohingya Camp)	共	2024年3月12日	26(3) 1-3	発表者：Takaya Hayashi, Gyo Miyabara
2. Confucian Perspective on Dying: A Study of Vietnamese Refugees Living in Japan (口頭発表)			International Symposium on Transnational Caregiving and End of Life from Global Perspectives	
3. 団地を訪ねる：日系ブラジル人との出会いから (口頭発表)	単	2024年3月2日	名古屋アジア散歩第3回シンポジウム	発表者：HAYASHI Takaya, MIYABARA Gyo, LI Kris Chung Tai
4. 継承語に関するナラティブ研究の方法論的課題：在日ベトナム系移住者の事例から (口頭発表)	単	2024年2月25日	シンポジウム「移動・境界・言語」／共同利用・共同研究課題「移民の継承語とエスニックアイデンティティに関する社会言語学的研究 (jrp000267)」	
5. 愛知における在日ベトナム人コミュニティ (口頭発表)	単	2023年10月14日	2023年度第2回研究会 (通算第8回目)／第33回東京移民言語フォーラム	
6. 世代を越えて何が継承されるのか：関西のベトナム人集住地域の事例から (口頭発表)	単	2023年2月18日	名古屋アジア散歩第1回シンポジウム	
7. Vietnamese Professional Care Workers for Vietnamese Living in Japan (口頭発表)	共	2022年12月12日	DDDlingフォーラム：継承語としてのベトナム語／第3回ベトナム語研究会	
8. 相互文化的交流をめざした第二言語学習支援のデザイン (ポスター発表)	単	2022年11月4日	International Symposium on Transnational Professional Caregiving for Older Adults and Care Workers' Wellness in the U. S., Mexico, Taiwan, and Japan	
9. 日本語教室の活動内容や教材 (テキスト) について (講演・ワークショップ)	単	2022年3月5日	第7回大阪大学豊中地区研究交流会	
10. 在日ベトナム人生活者について (口頭発表、基調講演)	共	2022年3月5日	在日ベトナム人への日本語支援シンポジウム 2022、静岡県ベトナム人協会	
			在日ベトナム人への日本語支援シンポジウム 2022、静岡県ベトナム人協	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
11. ベトナム文化交流展：友好の絆を深めよう（企画展パネル作成）	共	2021年10月2日～2021年11月7日	会 姫路市見野の郷交流館（見野総合センター）1階企画展示室	ベトナム人への日本語教育を行っている参加者が各地域における在日ベトナム人生活者の状況や課題を知り、支援のネットワークを広げられるように話題提供を行った。 発表者：野上恵美，林貴哉 姫路市で開催された「ベトナム文化交流展」に際して、地域に在住するベトナム系住民が来日するに至った歴史的な背景と現在の暮らしや、ベトナムの文化に関して、地域住民に紹介するためのパネルの作成依頼を受けた。 制作者：林貴哉，瀬戸徐映里奈 担当：ベトナムの概要に関する「ベトナムってどんな国？」「ベトナム語の文字」「少数民族」、渡日の背景に関する「日本に暮らすベトナム人の人口」「在留資格のちがひ」「難民として渡日したベトナム人」「近年のベトナム人の渡日背景」、兵庫・姫路のベトナム人に関連した「兵庫県内のベトナム人支援の取り組み：神戸市の場合」というパネルを作成した。
12. ベトナム人と長田の今：携わる事業をふまえて（口頭発表）	単	2021年9月20日	第二回地域の多様性の歴史を学び理解を深めるセミナー、特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター	神戸市の外国人支援団体で活動したいと考える地域住民や学生ボランティアを対象としたセミナーで講師を務めた。日本とアメリカ合衆国のベトナム人集住地域で行ったフィールドワークに基づいて、ベトナム人コミュニティの様子を紹介した上で、支援を必要とする人にどのようにアプローチしてきたのかを述べた。最後に一人ひとりの状況に応じた支援を行うことの重要性を示した。
13. 多言語話者のライフストーリーを書く：在日ベトナム系移住者を対象とした複言語的な調査の再考（口頭発表）	単	2021年8月5日	第136回大阪大学地域研究フォーラム	これまでベトナム系移住者を対象に実施してきたインタビューでは、言語の混淆のあり様がその都度異なることを、応用言語学におけるマルチリンガリズム研究とエスノグラフィー研究における議論を参照しながら整理した。インタビューのトランスクリプトをもとに、背景の異なる二人の多言語話者が会話をすることで進められるインタビューがどのように構築されているのかを分析した。
14. 在日ベトナム人社会における華人に関する事例報告（口頭発表）	共	2021年6月26日	神戸華僑華人研究会第190回例会	日本が受け入れたベトナム難民の中には、一定数の中国系ベトナム人が含まれている。しかし、在日ベトナム人研究においては、ベトナム難民というカテゴリーが注目され、中国系としての側面は見落とされがちであった。本発表では在日ベトナム人の定住の歴史を整理した上で、中国系ベトナム人の自伝的物語や新聞記事、フィールドで出会った中国系ベトナム人の語りの分析を行い、在日中国系ベトナム人の姿を描き出した。 発表者：林貴哉，瀬戸徐映里奈，野上恵美 担当：中国系ベトナム人の自伝的物語と新聞記事の分析。
15. 世界の働き方（司会）	共	2021年2月11日	相互理解講座、ふたば国際プラザ	外国にルーツを持つ子どもを指導する教員や外国人支援に関心を持つ人を対象とした相互理解講座として、神戸で働く3人（ベトナム、内モンゴル、スリランカ出身）をゲストに迎えて、出身地と日本での勤務経験を比較しながら話をしてもらった。 担当：ゲストに事前に聞き取りをし、当日は司会を担当した。
16. Social Support for Vietnamese living in Japan under COVID-19（口頭発表）	共	2020年11月12日	Mini-Symposium: Disaster, Trauma & Human services, Ritsumeikan University and University of Oklahoma	アメリカ合衆国と日本におけるコロナ禍のソーシャル・サービスに関するシンポジウムにおいて、日本における新型コロナウイルス感染症の状況、その中でベトナム人コミュニティの課題、それに対するベトナム人支援組織「ベトナム夢KOBE」の取り組みを発表した。 発表者：Duong Ngoc Diep，野上恵美，林貴哉 担当：コロナ禍によって、自身がパーソナリティを務めるインターネット・ベトナム語ラジオ番組の制作・発信方法や内容がどのように変化し、コミュニティへどのような影響を与えているのかを述べた。
17. 外国にルーツを持つ子どもへの学習支援で気をつけるべきこと（講演・ワークショップ）	単	2020年10月18日	学習支援者研修会、特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター	学習支援教室に通う子どもたちの背景を知るために、子どもや家族の移動の事例を紹介した上で、各参加者にとっての学校経験と子どもたちの経験の共通点と相違点を考えてもらうワークを行った。具体的な支援方法の例として、学習支援で気をつけるポイントを紹介し、外国にルーツを持つ子どもは、どのようなことにつまずくか、なぜつまずくのかを考える機会とした。
18. オンライン対応実習	単	2020年9月6日	日本語ボランティア	これまでICTに親しんでこなかった日本語ボランティアを対象に、オ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
型日本語ボランティア講座：学習者の学びと交流を深めるために（講演・ワークショップ）		日～2020年10月25日	ア講座、ふたば国際プラザ	オンラインでの学習支援を行うことができるようになるための講座（全8回）を企画した。講座の前半では、Zoomの使用方法を理解してもらい、後半では実際に日本語学習者とオンラインでつなぎ、日本語での会話や学習支援をする実習を行った。最後にオンラインでの学習支援の困難点と必要な工夫を整理した。講座参加者は自分自身でZoomのホストになり、学習支援を行うことができるようになった。
19. 世界の子育て：ベトナムから日本に来て（司会）	共	2020年1月18日	相互理解講座、ふたば国際プラザ	外国にルーツを持つ子どもを指導する教員や外国人支援に関心を持つ人を対象とした相互理解講座として、日本で子育てをしているベトナム人女性2人をゲストに迎えて経験を聞いた。事前の聞き取りを踏まえて司会を行い、質疑応答のマネジメントを行った。
20. 日本語ボランティアの役割④：学習者の生活を取り入れた学習活動（講演・ワークショップ）	単	2019年8月31日	コミュニケーション重視の日本語ボランティア基礎講座、ふたば国際プラザ	「日本語を話せるようになりたい」という学習者の要望に応えるためには、その学習者が、どのような場所で誰とどのようなことを日本語で話したいと思っているのかを知り、その要望に合った支援を行う必要がある。そのような支援を行うための理論的背景として、学習者オートノミーやCEFRの行動中心アプローチを紹介した。また、ツールとしては、日本語ポートフォリオや自己表現活動を行うための教科書・リソースの紹介を行った。
21. 日本語ボランティアの役割①：学習者の話に耳を傾ける（講演・ワークショップ）	単	2019年7月28日	コミュニケーション重視の日本語ボランティア基礎講座、ふたば国際プラザ	日本語ボランティアを始めようとする人を対象に基礎講座を企画した。その中でも「学習者の話に耳を傾ける」では、日本語非母語話者を圧倒させずに会話相手になるための練習を行った。複数人で話をする場合、どの人がどのように会話の主導権を握り、どのように会話を継続しているのかを意識することで、発話量を調整できるようになる。普段は無意識に行っている自身の発話に注意を向けながら話す練習を行った。
22. 学習者の生活視点を取り入れた日本語学習支援を考えてみませんか（講演・ワークショップ）	単	2019年7月7日	KFC研修会、特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター	地域で生活する成人日本語学習者の支援を行う日本語ボランティアを対象に、目の前の学習者を理解した上でその人に合った支援を行うための方法を探るためのワークショップを実施した。多様な背景を持つ学習者が、どのような生活面でどのように日本語を使用しているのかを整理した上で、学習者の生活を知るために使用できるリソースを紹介した。
23. 大阪大学文学部における正課外言語学習活動の取り組み：学生主体によるタンデム学習プロジェクト（Tandem Learning Project）（口頭発表）	共	2018年3月21日	第24回大学教育研究フォーラム	大阪大学文学研究科・文学部国際連携室国際交流センターで実施しているタンデム学習プロジェクトは、日本語教育を専門とする大学院生を、リサーチ・アシスタント（RA）として雇用して運営されている。言語教師とは異なる立場のRAが運営に携わることで、参加者が主体的にプロジェクトに参加でき、RAにとっては言語学習アドバイジングを実践する機会になっている。 発表者：丁愛美、林貴哉、王静斎、劉姝、中尾未来、謝佩芳、李眩珠
24. “人”から考える言語学習：経験を聞くこと / 書くことを通して（口頭発表）	単	2017年11月3日	第4回阪大院生知の横断、大阪大学	担当：RAの立場から、プロジェクト運営上の注意点や課題、運営に関わったことで得た学びについて述べた。 知の横断は、高校生を主な対象として、文理それぞれの研究について紹介し、討論する企画である。日本語教育に関する研究を始めた経緯と、自身の留学の経験、そして、現在、取り組んでいる質的研究の手法とその意義を述べることで、これから進路を決定しようとする高校生に対して情報提供するだけでなく、研究者に対しても、研究手法の違いによる発想の違いについて議論するきっかけを提供した。
25. 在日ベトナム難民1世の社会参加と複言語使用（口頭発表）	単	2017年9月23日	第65回多言語化現象研究会	日本国内で移住を繰り返し、在日ベトナム人のための寺院の建設にも関わってきたベトナム難民1世の男性のライフストーリーを提示した。ベトナム難民の多くは、短期間の日本語教育や生活指導を受けた後、就職の斡旋を受け、日本での生活を開始した。彼の物語から、定住開始後の生活における、社会との関わり方の変化に応じて、複言語使用の実態がどのように変化していくのかを考察した。
26. The role of church for “Home-making”（口頭発表）	共	2017年5月5日	Bridging Strangers within : Reflections on Indigeneity, Diversity and	カナダの多文化主義に関するワークショップにおいて、国境を越えた移動と宗教実践を通した居場所（Home）作りについて発表を行った。カナダトロントに位置する2つの教会でのフィールドワークの結果を、日本における宗教実践や、多文化共生の取り組みと比較しながら分析し、カナダの多文化主義の現状と特徴を提示した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
27. 大阪に暮らすベトナムルーツの子どもたちへのベトナム語教育（口頭発表）	共	2015年3月19日	Multiculturalism (Fourth Annual Joint Graduate Student Workshop), University of Toronto ベトナムの文化を知ろう！、八尾市・大阪大学連携協力講座	発表者：陳思源，神谷千織，林貴哉，佐々木美和 担当：フィールドワークはすべての発表者が共同で行い、日本のカトリック教会との比較は林が行った。 八尾市民を対象とした市民講座において、八尾市立小学校でベトナムルーツの児童を対象に実施されている母語（ベトナム語）の授業にサポーターとして参加しているメンバーで発表を行い、支援活動での取り組みや課題を紹介した。 発表者：田之上真，近藤美佳，松繁遥香，林貴哉 担当：「在日ベトナム人の歴史的背景」について述べた。
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		